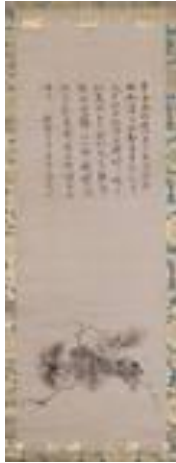


Ⅱ 24 年度自己点検評価報告書 個別表

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1111

大項目	Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1)－1 適時適切な収集							
【年度計画】 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 富田 淳					
【実績・成果】 ・購入件数 5件 内訳：絵画3件、書跡1件、漆工1件 ・決算額 106,050,000円 24年度は、絵画3件(狩野秀頼筆蔬菜図、鶴鴒図、重要美術品・没倫紹等筆葡萄図)、書跡1件(本阿弥光悦筆赤壁賦)、漆工1件(朱漆輪花盤)の計5件を購入した。								
【補足事項】 ・絵画の蔬菜図は、類品の少ない室町時代の貴重な遺例である。鶴鴒図は当館の収蔵品に少ない中世水墨画の花鳥画の作例であり、葡萄図は当館で初めて収蔵する没倫紹等の作品となる。いずれも総合文化展や特集陳列での活用が期待される。 ・書跡の赤壁賦は、本阿弥光悦の数少ない純然たる書作品で、総合文化展や特集陳列、他作品と関連づけた展示に活用が可能である。 ・漆工の朱漆輪花盤は、根来塗の典型を示す作品で、漆工や茶道に関する特集陳列や、中世の工芸史に関する展示に活用できる。 ・24年度は当館収蔵品の中から新たに国の指定を受けたものはなかった。								
								
没倫紹等筆葡萄図								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
収蔵品件数	114,362件	—	—		112,529	112,776	113,258	113,897
うち国宝	87件	—	—		87	87	87	87
うち重要文化財	631件	—	—		622	624	629	631
購入件数	5件	—	—		7	8	4	0
総合的評価	S ① B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (東京国立博物館) 日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調			

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承																																																
事業名	(1)-1 適時適切な収集																																																
【年度計画】 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。																																																	
担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長 鬼原俊枝																																														
【実績・成果】 ・購入件数 1 件 内訳：考古資料 1 件 ・決算額 22,000,000 円 今年度の購入件数は 1 件のみであるが、当館にとって重要な考古資料である、平安時代の記年銘経塚出土品一括資料を購入した。																																																	
【補足事項】 ・今年度購入の考古資料は、土製外容器及び銅製経筒で、内部には十巻分の経軸が遺存する。土製外容器は瓦質灰色で総高は 32.8cm。身表面の四方には天部像が陰刻されており、天部像の間に四行の銘文が篋で刻まれる。銘文は「仁平三年／九月廿三日／紀武國／藤原氏女」である。外容器の蓋裏には輪宝文が篋描きされている。内蔵された経筒は青銅鑄造品で総高は 27.5cm。経筒外面には「仁平三年～」の銘文が刻まれている。経筒内部の経軸には紙本経の残存が付着しているが展開できる状態ではない。出土地などの伝来は明らかでないが、京都周辺の経塚から出土した可能性が高い。表面に刻まれた四体の天部像や蓋内面の輪宝文などはきわめて重要な図像資料である。12 世紀半ばの京都周辺の経塚遺物としてきわめて貴重な作例である。保存状態も比較的良好で展示効果も高い。さらに今後の研究課題としても重要な作品であるといえる。 ・本件は、平成 16 年に寄託され、19 年度には当館主催「藤原道長」展に出品され、今年度寄託品から購入となったものである。																																																	
																																																	
土製外容器 天部像陰刻																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th><th>24 年度実績</th><th>目標値</th><th>評価</th><th rowspan="5">経年変化</th><th>20</th><th>21</th><th>22</th><th>23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収蔵品件数</td><td>6,708 件</td><td>—</td><td>—</td><td>6,417</td><td>6,526</td><td>6,584</td><td>6,621</td></tr> <tr> <td>うち国宝</td><td>27 件</td><td>—</td><td>—</td><td>27</td><td>27</td><td>27</td><td>27</td></tr> <tr> <td>うち重要文化財</td><td>179 件</td><td>—</td><td>—</td><td>177</td><td>176</td><td>177</td><td>177</td></tr> <tr> <td>購入件数</td><td>1 件</td><td>—</td><td>—</td><td>8</td><td>7</td><td>23</td><td>13</td></tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23	収蔵品件数	6,708 件	—	—	6,417	6,526	6,584	6,621	うち国宝	27 件	—	—	27	27	27	27	うち重要文化財	179 件	—	—	177	176	177	177	購入件数	1 件	—	—	8	7	23	13
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23																																									
収蔵品件数	6,708 件	—	—		6,417	6,526	6,584	6,621																																									
うち国宝	27 件	—	—		27	27	27	27																																									
うち重要文化財	179 件	—	—		177	176	177	177																																									
購入件数	1 件	—	—		8	7	23	13																																									
総合評価	S A ③ C F (S、F の理由)																																																
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。																																																	
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					ほぼ順調																																												

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 1113

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1)－1 適時適切な収集							
【年度計画】 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長 岩田茂樹					
【実績・成果】 ・購入件数 2件 内訳：絵画1件、書跡1件 ・決算額 27,300,000円 購入により2件の文化財が新たな収蔵品として加わった。 ・絵画 絹本著色東大寺曼荼羅 1幅 室町時代(16世紀) ・書跡 古写経断簡集 1巻 奈良～平安時代(8～12世紀)								
【補足事項】 ・絵画部門の購入品である東大寺曼荼羅は、永禄元年(1567)の松永久秀による兵火のため、大仏殿等が焼失する以前の東大寺伽藍を描いた絵画で、鎌倉復興以降の中世の寺院景観を描いた貴重な資料。また本図は南都絵所の作とみられる画風を示し、中世絵画史の資料としても貴重。 ・書跡部門の購入品である古写経断簡集は、奈良～平安時代に書写された写経の断簡集で、これまで博物館で所蔵していない著名な写経の断簡が含まれる他、いくつかの断簡についてはもとの所属先も突き止めることが可能で、研究資料としての価値も高い。								
 絹本著色東大寺曼荼羅								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
収蔵品件数	1,834件	—	—		1,805	1,812	1,827	1,831
うち国宝	13件	—	—		12	12	13	13
うち重要文化財	111件	—	—		108	110	109	109
購入件数	2件	—	—		7	4	7	4
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(1)-1 適時適切な収集								
【年度計画】 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。									
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	資料登録室主任研究員 丸山猶計						
【実績・成果】 ・購入件数 18 件 内訳：絵画 5 件、書跡 1 件、彫刻 1 件、陶磁 1 件、染織 1 件、考古 3 件、歴史資料 6 件 ・決算額 718,835,000 円 当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集する一方で、日本の王朝文化を象徴する作品として、優れた文化財を 18 件購入した。									
【補足事項】 ・絵画分野においては、平安時代末期の仏画の優品「紙本著色金胎仏画帖断簡（金剛歌菩薩）」（熊本県人吉市願成寺旧蔵）や、鎌倉時代前期に遡る初期歌仙絵の「重要美術品 紙本墨画淡彩蟬丸図」、また、江戸時代初期の狩野光信周辺の制作になる「紙本金地著色帝鑑図六曲屏風」（バイエルン王国皇太子旧蔵）など、5 件を購入した。 ・書跡分野においては、中国元時代に、中国人禅僧が日本人修行僧に書き与えた墨蹟「紙本墨書樵隱悟逸墨蹟 与無夢一清偈」1 件を購入した。 ・彫刻分野においては、朝鮮時代の陶造菩薩坐像（長崎県対馬市修善庵観音堂旧蔵）1 件を購入した。 ・陶磁分野においては、一般に輸出用とされる伊万里金襴手様式の色絵磁器で、国内に伝来したことが明らかな「色絵桐亀甲文大皿」1 件を購入した。 ・染織分野では、加賀藩主前田家に伝来した中国・元～明時代の名物裂帖（金羅、金紗や印金など約 300 枚）1 件を購入した。 ・考古分野では、伝青森県出土の土偶 2 件と青森県岩木川流域出土の深鉢形土器 1 件を購入した。 ・歴史資料分野においては、公家の勸修寺家に伝来した中世文書「勸修寺家文書」、現存稀少な 16 世紀のベトナムから日本宛の書簡「紙本墨書安南国副都堂福義侯阮肅書」及び「紙本墨書安南国臣文理侯書」、また、朝鮮通信使の行列を対馬藩の原図をもとに描いた「紙本著色正徳元年朝鮮通信使参着帰路行列図巻」、針突の痕が確認できる伊能図（中図）「紙本著色伊豆東半部及七島図」の計 6 件を購入した。 ・いずれも、我が国と大陸あるいは九州と本州等との交流を物語るもの、あるいは、時代の美意識や工芸技術の高さを端的に示す優品であり、当館の文化交流展における基礎をなすものといえる。									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	20	21	22	23
収蔵品件数		474 件	—	—		370	397	433	453
うち国宝		3 件	—	—		3	3	3	3
うち重要文化財		29 件	—	—		25	27	28	29
購入件数		18 件	—	—		30	27	31	17
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



前田家伝来名物裂帖

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1121

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1)－2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用							
【年度計画】 (4館共通) 1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。								
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 富田 淳					
【実績・成果】 1) ○寄贈 ・新規寄贈品件数 63 件 内訳：絵画 10 件、書跡 33 件、歴史資料 1 件、東洋絵画 1 件、東洋書跡 1 件、東洋金工 16 件、東洋陶磁 1 件 ○寄託 ・新規寄託品件数 3 件 内訳：絵画 2 件、書跡 1 件 ○登録美術品は 1 件減少した。								
【補足事項】 ○作品の寄贈については 9 名の所蔵者から、63 件の文化財を受け入れた。 ・絵画の寄贈品のうち、「谷文晁筆稚児文殊像」は、制作時期が文政頃の貴重な作品である。「歌川国芳筆通俗水滸伝豪傑百八人之一個」は、代表作 74 図のうち 64 図が一括保管される貴重なものである。 ・書跡の寄贈品のうち、「伝源俊頼筆東大寺切」は、当館の「国宝古今和歌集(元永本)」と同じ料紙を使った展示効果の高い作である。 ・東洋金工の寄贈品の多くは、当館にない作例であり、東洋館における展示を充実させるものである。								
								
〔寄贈品〕 伝源俊頼筆東大寺切								
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	20	21	22	23
新規寄贈品件数	63 件	—	—		81	43	23	151
寄託品件数	2,563 件	—	—		2,750	2,734	2,726	2,689
うち新規寄託品件数	3 件	—	—		39	3	5	7
登録美術品件数	2 件	—	—		3	3	3	3
総合評価	S ㊤ B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調			

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(1)－2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用								
【年度計画】									
(4 館共通)									
1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。									
担当部課	学芸部列品管理室			事業責任者	室長 鬼原俊枝				
【実績・成果】									
1) ○寄贈									
・新規寄贈品件数 86 件 内訳：彫刻 2 件、陶磁 61 件、染織 1 件(12 点一括)、考古 22 件 ・今年度寄贈品 86 件のうち考古資料 9 件、陶磁器 26 件の計 35 件は寄託品からの寄贈である。特に考古資料は重要文化財変形方格規矩鏡の寄贈を受けた。陶磁器は、長期寄託者から、来年度の特別展の重要な展示となる寄託品をこの機に寄贈していただけることになった。									
○寄託									
・新規寄託品件数 73 件 内訳：絵画 28 件、書跡 4 件、彫刻 4 件、陶磁 35 件、漆工 2 件 ・今年度は展示館の建て替え工事中で平常展示はできないが、研究資料として、また特別展覧会での活用が見込まれる。陶磁器は京都の社寺を含む所有者から多数の寄託申し出を受け、清朝陶磁の寄託が飛躍的に増加した。近世絵画は円山派の一括資料 459 点の寄託を受け、京都画壇の資料がさらに充実した。									
【補足事項】									
○寄贈									
・寄贈は 86 件で、寄贈者は 5 人であった。 ・彫刻 2 件、陶磁器 59 点、考古 13 件は、個人から一括寄贈を受けたもので、陶磁器は漢から清に至る中国陶磁器群であり、なかでも粉彩松鹿図瓶 大清乾隆年製銘は、特に著名な優品で清朝陶磁展の目玉となるものである。 ・陶磁器のうち青花琵琶湖八景図磁板は、長期寄託者が来年度の特別展清朝陶磁展での重要な出品作を、この機に寄贈くださったものである。 ・近代染織の収集方針は婚礼衣装と子供の衣裳であるが、本件は関西の旧家に伝わった 2 代にわたる近代の婚礼衣装群である。なかでも金通地日本名所文様友禅染振袖打掛は、洋画の影響が明らかな典型的作例で、近代友禅染の展開を知る上に重要な作例である。 ・考古 9 件は 2 世代 60 年にわたる寄託者からこのたび一括寄贈を受けたものである。とりわけ重要文化財の変形方格規矩鏡は 4 世紀頃に日本列島で制作された銅鏡の代表例であり、鏡面にまで文様帯を表現する点がきわめて珍しい。また同じ寄贈者からは大阪府豊中市の御神山古墳出土の三角縁神獣鏡 1 面及び大型車輪石 2 点などの貴重な遺物をいただいた。さらに弥生時代の銅戈 1 口や青銅鏡 3 面、石鏃・銅鏃他の一括資料 208 点、鉄鏃・骨角器など 53 点からなる豊かな内容の遺物 2 件の寄贈を受けた。									
○寄託									
・新規寄託は 5 分野にわたって多様な文化財が寄託された。絵画 28 件のうち、仏画 1 件は現在開催中の特別展国宝十二天像と密教法会の世界展に展示中の梵天像他 5 点の作例で、展示のために応急手当をした上で寄託くださった。近世絵画 12 件は 5 件の円山派作品を含み、特に円山応挙・円山派関係資料は 1 件 459 点のまとまった資料で、京都画壇円山派の研究資料として活用が期待できる。また 3 件の狩野山楽山雪作品は春の特別展山楽・山雪に向けての調査及び展示活用が見込まれる。8 件の中国絵画のうち 3 件は館蔵品中の著名な須磨コレクションに含まれる作家の作品、王冶梅筆空谷幽香図は京都鳩居堂主人に贈られたものである。 ・清朝陶磁展調査をお願いした大中院、正伝永源院、霊洞院外の京都の社寺から 16 件におよぶ中国陶磁器の寄託の申し出をいただいた。 ・返却した寄託品は 172 件であるが、そのなかには寄贈及び購入したものが 36 件含まれている。									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
新規寄贈品件数		86 件	—	—	経年変化	21	102	35	24
寄託品件数		5,914 件	—	—		5,907	5,957	6,005	6,013
うち新規寄託品件数		73 件	—	—		111	180	107	93
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】									
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



〔寄贈品〕重要文化財 変形方格規矩鏡
附 変形四獣鏡（鏡面付着）
（京都府向日市物集女恵美須古墳出土）

【書式A】

施設名

奈良国立博物館

処理番号

1123

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1)ー2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用							
【年度計画】 (4 館共通) 1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長 岩田茂樹					
【実績・成果】 1) ○寄贈 ・新規寄贈品件数 1 件 内訳：書跡 1 件 ・寄贈の受け入れは次の 1 件であった。 書跡 1 件（紺紙金字五苦章句経 1 巻） ○寄託 ・新規寄託品件数 13 件 内訳：絵画 7 件、彫刻 3 件、工芸 3 件 ・寄託については、新規に 9 人の所蔵者から 13 件の作品の文化財を受け入れた。 絵画 7 件（重要文化財 板絵著色諸尊曼荼羅図（附. 板絵断片 3 面） 1 面 / 絹本著色高野四所明神像 1 幅 / 紙本著色与喜天神祭礼図 1 幅 / 絹本著色雨宝童子像 1 幅 / 奈良市指定文化財 紙本著色富士参詣曼荼羅図 1 幅 / 絹本著色両界曼荼羅 1 幅 / 紙本著色高野大師行状図画 10 巻） 彫刻 3 件（重要文化財 木造光背（1 号） 1 面 / 重要文化財 木造光背（2 号） 1 面 / 重要文化財 木造光背（39 号） 1 面） 工芸 3 件（百万塔 1 基 / 奈良県指定文化財 刺繍阿弥陀如来来迎図 1 幅 / 小龕三方面仏像 1 基）								
【補足事項】 ○寄託 ・絵画部門の寄託品である紙本著色富士参詣曼荼羅は、中世以降流行した富士山への山岳信仰を背景に製作されたもので、全国的にも稀少な資料である。 ・彫刻部門の寄託品である木造光背は、當麻寺に集中して遺存する板光背と呼ばれる形式のもののうちの屈指の優品で、古代仏教美術の荘厳に関する一級資料である。 ・工芸部門の寄託品のうち刺繍阿弥陀如来来迎図は、鎌倉時代以降に流行した阿弥陀来迎図を絵画ではなく刺繍で表した作品。願主ゆかりの人物の頭髪を編み込んだもので、中世の追善供養の一形式を示すものとして重要な資料である。								
								
[寄託品] 刺繍阿弥陀如来来迎図								
【定量的評価】 項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
新規寄贈品件数	1 件	—	—	年 変 化	4	3	8	0
寄託品件数	1,951 件	—	—		2,067	1,957	1,947	1,945
うち新規寄託品件数	13 件	—	—		15	9	6	12
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(1)ー2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用								
【年度計画】									
1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。									
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	資料登録室主任研究員 丸山猶計						
【実績・成果】									
1) ○寄贈 - 新規寄贈品件数 3件 内訳：書跡2件、考古1件 ○寄託 - 新規寄託品件数 30件 内訳：絵画10件、陶磁11件、染織1件、考古8件									
【補足事項】									
○寄贈 3件の寄贈があった。 - 書跡分野においては、鎌倉時代前期の公卿で歌人・歌学者である藤原定家（1162～1241）に関係の深い作品の寄贈を受けた。1件は、彼の日記『明月記』の写本で、建暦3年5月26日条の断簡。2件目は、参議源等（880-951）の和歌をしたためた「小倉色紙」で、江戸幕府の老中、川越藩主や館林藩主を出した秋元家に伝来した。ともに定家様の書体で書かれており、書跡作品としてまた文化史の資料として、多彩な活用が期待される。 - 考古分野においては、東北地方の縄文時代の石器・石製品を中心とする個人コレクション294点からなる「田島外雄収集考古資料」の寄贈を受けた。とくに、青森県中津軽郡西目屋村川原平出土の「青竜刀石器」は、完形品で由緒書が付属しており、コレクション中の白眉である。									
○寄託 30件の新規寄託があった。 - 絵画分野において、「紙本墨画大應・大燈国師像 白隠慧鶴筆」や久留米市指定文化財「絹本着色楊柳観音図」など、2寺より計10件の寄託を受けることによって、主に近世絵画の充実を図った。 - 陶磁分野においては、上野焼、高取焼、現川焼、長与焼の作品11件の寄託を受け、近世九州陶磁の展示をより多彩かつ充実したものとすることができた。 - 染織分野においては、「前田家伝来名物裂帖」の寄託を受けた。元～明時代に及ぶ金紗や印金を中心とする、名物裂300枚近くが貼られた大部なもので、加賀藩主前田家収集時の原装をとどめており、名物裂帖の中でも抜群の規模と内容を誇る優品である。秋のトピック展示「茶の湯を楽しむⅤ」で展示し、好評を得た。本年度第3回鑑査会議等を経て、購入の運びとなった。 - 考古分野においては、古墳時代の九州とヤマトの交流を示す資料として貴重な「富雄丸山古墳出土 車輪石」を含む8件の寄託を受けた。 - 所有者へ返還した寄託品11件のうち、2件は購入の運びとなった。									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
新規寄贈品件数		3件	—	—		7	0	4	1
寄託品件数		1,238件	—	—		1,105	1,256	1,297	1,219
うち新規寄託品件数		30件	—	—		46	197	50	17
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



〔寄贈品〕紙本墨書明月記断簡
建暦三年五月二十六日条

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1211

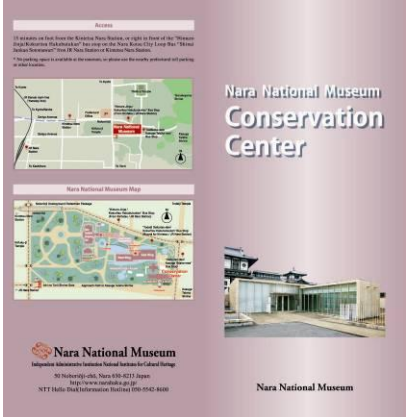
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存							
【年度計画】 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (4館共通) 1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (東京国立博物館) 1) 列品存在確認作業(棚卸)を継続して計画的に実施する。 2) 歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を進める。								
担当部課	学芸研究部列品管理課 学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 富田 淳 課長 神庭信幸					
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・本格修理のための列品調査、対応修理の実施、列品貸与の点検として1,594件の保存カルテを作成し、蓄積した。 ・収蔵品管理システム「列品管理プロトタイプデータベース」に、作品の保存カルテを表示する機能を追加した。 (詳細は処理番号 4571-3 参照) (東京国立博物館) 1) 平成20年度末から実施している、収蔵品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。 2) 旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進めた。								
【補足事項】 ・本格修理時115件、応急修理時563件、列品貸与時916件、合計1,594件の保存カルテを作成した。 ・列品情報整備事業の本格調査4年目にあたる本年度は、絵画・書跡・彫刻・建築・金工・刀剣・陶磁・漆工・染織・考古・民族・法隆寺宝物・和書(帝室本)・東洋絵画・東洋書跡・東洋彫刻・東洋金工・東洋陶磁・東洋染織・東洋漆工・東洋考古・東洋民族・古写真の諸分野で作業を進めた。平成24年度の調査件数は49,318件である。 ※保存カルテ作成件数の計数方法については、23年度より収蔵品及び寄託品のみを対象とし、特別展等の借用品における応急修理時の保存カルテ作成分は含まないものとした(22年度までは含む)。								
 列品情報整備の作業(彫刻)								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年 変化	20	21	22	23
保存カルテ作成件数 (23年度より計数方法変更)	1,594件	—	—		2,693	1,989	2,368	1,187
総合評価	S ① B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調						

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(2)-1 収蔵品の管理・保存							
【年度計画】 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (4館共通) 1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (京都国立博物館、奈良国立博物館) 1) 文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的保存を図る。								
担当部課	学芸部列品管理室 学芸部修理指導室長	事業責任者	室長 鬼原俊枝 室長 浅湊毅					
【実績・成果】 ・年に2回定期的に実施している寄託品の期間継続に伴う点検を実施した。 ・収蔵品の貸与記録及び館内の展示記録を継続して行った。 ・寄託制度に関するリーフレットを作成し、3年ごとの寄託継続のお知らせと共に寄託者に送付し、寄託者との良好な信頼関係を維持と、寄託業務に対する理解の増進を図った。 ・収蔵庫備品として、メリヤスウエス（綿布）を導入し、収納箱等の日常清掃に活用した。 (4館共通) 1) 貸与に伴う点検時を主体として作成を行っている館蔵品の保存カルテの作成を継続して行った。 (京都国立博物館、奈良国立博物館) 1) 文化財保存修理所については、修理工房の巡回を行う等、円滑な運用に努めた。(詳細は処理番号4562-1参照)								
【補足事項】 ・寄託者向けリーフレットは、寄託に関する主な規則及び一時返還、返還、出品預書の紛失、住所の変更、名義変更、寄託中の文化財の相続にあたっての手續等についてまとめたもので、寄託品の管理上、寄託者との良好な連絡を保つことが必須であることから、導入した。 ・上記リーフレットを試験的に寄託継続の所有者に発送したところ、特に問題は発生しなかったため、24年度内に全寄託者に発送した。25年度以降は随時改訂しながら、寄託継続の際に郵送する予定である。 (4館共通) 1) 館蔵品の保存カルテを215件作成した。								
 寄託者向けリーフレット								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
保存カルテ作成件数	215 件	—	—		174	214	108	249
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 1213

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2) -1 収蔵品の管理・保存								
【年度計画】 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (4館共通) 1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (京都国立博物館、奈良国立博物館) 1) 文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的保存を図る。									
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 保存カルテの作成 - 保存カルテについては、文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成・保管するシステムの運用が軌道に乗ったことで、127件を順調に作成した。 - 保存カルテのコンディション評価欄に記入されたA～Eの5段階評価についてデータを集計し、館蔵・寄託品データベースに統合するための準備を進めた。 (京都国立博物館、奈良国立博物館) 1) 文化財保存修理所の運用 - 学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工場の3工房代表者との懇談会である今年度第1回目の文化財保存修理所協議会を24年6月21日に開催し、各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境改善に関する課題などを討議した。 - 館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を、5回実施した。									
【補足事項】 24年12月26日から25年1月20日まで当館西新館北第1室において保存修理指導室が中心となり準備した特集陳列「新たに修理された文化財」を開催し、近年に文化財保存修理所各工房などで修理が実施された当館館蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示することで(11件展示)、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。 - 昨年度日本語版を作成した文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットについて、新たに英語版を2,000部作成し、修理所公開や海外の修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布した。 25年2月15日に平成21年から続く文化財保存修理所一般公開を開催し、修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。									
									
文化財保存修理所案内パンフレット (英語版)									
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23	
保存カルテ作成件数	127件	—	—		108	114	218	130	
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)-1 収蔵品の管理・保存								
【年度計画】 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (4館共通) 1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (九州国立博物館) 1) 博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存を図る。									
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長	今津節生					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 収蔵品及び修理完了資料を中心とした保存カルテを作成した。 (九州国立博物館) 1) 展示品を中心にX線CTスキャナ・3Dデジタイザ・三次元プリンタを用いて非接触で三次元データを取得し、保存状況と構造調査を実施した。測定結果は文化財の予防的保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設1～6を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。									
【補足事項】 (4館共通) 1) 保存カルテの作成は、修理完了作品の他、収蔵品の中から計画的に対象を選定して行っている。本年度は、昨年度に引き続き、所蔵染織品と寄贈陶磁器の保存状況を調査しカルテを作成した。 (九州国立博物館) 1) ・文化交流展示室に展示した大分県竹田市教育委員会国指定重要文化財「銅鐘」について3Dデジタイザを使って構造・技法と保存状態を詳細に調査・記録した。その結果、南蛮鐘の製作技術に関して貴重な発見となった。この成果を基に竹田市教育委員会が中心となって鐘を铸造した。 ・那覇市市民文化博物館（歴史博物館）：国宝「琉球国王尚家関係資料」の「王冠」について、X線CT、3Dデジタイザによる構造技法調査を実施した。その結果、これまでに知られていなかった製作技法を発見した。 ・また、文化交流展示で展示中の長崎県松浦市鷹島海底沖発見の元寇関連海底遺物に関連して、松浦市教育委員会と協力して海底で錆びついた金属遺物の構造と保存状態の調査を実施した。海底で錆びた武器・釘等をX線CT調査することによって、モンゴル軍が使用した武器の実態や遺物の保存状態を明らかにすることができた。その調査成果はテレビ放送で紹介された。 ・文化交流展示で展示した久保惣美術館・泉屋博古館所蔵の中国青銅器について、X線CTスキャナや三次元計測装置による構造調査を実施した。その結果、中国古代鑄造技術について新たな知見を得た。									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
保存カルテ作成件数		91件	—	—	年 変 化	289	205	101	107
CTスキャン調査		59件	—	—		40	44	60	60
三次元計測		34件	—	—		42	45	58	55
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



3Dデジタイザで精密に三次元計測した
竹田市教育委員会所蔵南蛮鐘

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1221

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(2)ー2 施設の環境整備							
【年度計画】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 (4館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I P M (総合的有害生物管理) の徹底を図る。 (東京国立博物館) 1) 東洋館の耐震補強改修工事に伴う展示環境の整備を図り、よりよい展示を目指す。 2) 本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。 3) 収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたつて調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 4) 展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。 5) 収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。 6) 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。 7) 特別展示室における空調運転の最適化に関する調査を実施し、さらなる改善を図る。								
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 神庭信幸					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 収蔵庫など496地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 (東京国立博物館) 1) 東洋館の工事完了に伴い、収蔵庫及び展示室内に温湿度測定装置の配置、調湿剤の設置などを行い、環境の安定化を図った。 2) 本館2階5号収蔵庫への除塵防霉施工を行い、民族資料収蔵のための環境を整備した。 3) 収蔵庫及び展示室など361地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など34地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。これらのデータの解析・評価に基づき、平成館特別展示室の温室度環境を改善するための空調時間延長等の実験を実施し、効果を検証した。 4) 東洋館の工事完了に伴い、展示資料の展示支持具を設計し、地震対策を強化した。 5) 収蔵庫、展示室など243カ所の温湿度に関し、3段階に環境を分類(クラスⅠ、Ⅱ、要注意)した平成24年次報告書を作成した。 6) 特別展「中国 王朝の至宝」出品作品の借用の際に、輸送中の梱包ケースにショックタイマーを設置し、輸送環境管理を行った。 7) 空調運転の稼働時間を開館直前2時間前から開始し、閉館直後45分延長するとともに、展示出入り口の扉シャッターの開閉方式の変更によって、展示室内の温湿度環境の改善を図った。								
【補足事項】 ・文化財保存修復学会第34回大会(24年6月30日・7月1日、東京)において「博物館における包括的保存システムの構築に関する研究(その4)」を発表した。 ・文化財保存修復学会第34回大会(24年6月30日・7月1日、東京)において「展示ケース用合板からの放散ガスを遮蔽するアルミシートの性能と効果」を発表した。 ・文化財保存修復学会第34回大会(24年6月30日・7月1日、東京)において「博物館における中性紙製保存箱の活用」を発表した。								
 東洋館の展示に用いた支持具								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—	—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)ー2 施設的环境整備								
【年度計画】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 (4館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I P M (総合的有害生物管理) の徹底を図る。 (京都国立博物館) 1) 引き続き、平常展示館建替工事を実施する。 2) 平常展示館建替事業の一環として建設された東収蔵庫の生物生息防止及び空気環境維持のためのモニタリングを継続的に行い、収蔵品の保存環境の充実を図る。 3) 特別展示館（重要文化財 旧帝国京都博物館本館）の耐震調査の結果を基に、地震対策を具体的に検討する。。 4) 特別展示館の温湿度など、展示・保存環境に関わる調査研究を行う。									
担当部課	学芸部列品管理室 総務課		事業責任者	室長 鬼原俊枝 総務課長 植田義雄					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 年間を通じて、収蔵庫での網羅的な昆虫類生息調査を行った。また、温湿度モニタリングを拡大した。日常清掃のための備品を拡充した。 (京都国立博物館) 1) 平常展示館建替工事は24年度末に本体工事完了、引き渡しを受けた。 2) 東収蔵庫では、空調設備の保全に努めるとともに、日常の環境監視体制を整え、保存環境の維持・改善を図った。 3) 特別展示館（旧本館）の地震対策と合わせて行うべき改修計画について委員会審議を行った。 4) 特別展示館では、展示ケース内の温湿度モニタリングや昆虫類生息調査等、環境監視体制を強化し、状況に応じて、環境の維持・改善を図った。									
【補足事項】 ○保全業務 ・空調機の内部洗浄及びダクト清掃を実施するなど、空調設備の予防的メンテナンスに努め、定期的な保守・点検、各種フィルターの適宜交換等を行い、展示室及び収蔵庫の温湿度環境の適正管理を行った。 ・東収蔵庫全室及び特別展示館内の一部の収蔵庫・展示室・展示ケースについて、データロガーによる温湿度のモニタリングを行い、毛髪温湿度計や中央監視値と併せて、空調運転状況の監視体制を強化した。 ・電力事情を考慮し、空調運転時間の変更（収蔵庫）や会場準備期における空調停止や設定変更（展示室）を実施した。 ○展示室：特別展示館 ・展示室内及び展示ケース内の温湿度モニタリング箇所を拡大した。 ・展示室内の昆虫類生息調査は、目視点検を中心に継続しているが、一部展覧会では、インジケータ設置による調査も行った。展示室内フロア（24年7月・10月）と固定展示ケース内（24年7月）への蒸散性殺虫剤の散布を行った。 ・展示ケースの温湿度モニタリングにはデータロガーを用い、展示中も赤外線通信機によってケースの外から随時データ回収を行なった。展示品の材質や保存状態、借用条件を考慮した環境監視体制を整え、気象や混雑状況による展示環境の変動等を継続して調査している。 ・平常展示館で使用する新型ケースの仕様について設計・施工側と詳細な打ち合わせを行った。 ・免震改修を前提として、合わせて行うべき設備改修計画、展示運用計画等について審議し、保存活用計画策定に向けて各種準備作業に着手した。 ○収蔵庫：特別展示館及び東収蔵庫 ・データロガー等による温湿度モニタリングによって、空調設備の整備・点検・調整を適宜依頼することができた。・昆虫類生息調査（インジケータ調査）を、約170カ所（特別展示館80、東収蔵庫90）について8回行った。 ・特別展示館収蔵庫エリアについて、専門的な清掃と調査（I P Mメンテナンス）を行った。複数の専門業者と共同することによって、文化財周辺の清掃を安全かつ効率的に行うことができた。調査結果の分析については次年度の課題としたい。 ・各種調査等の館内報告や、ULPA掃除機やメリヤスウエス（綿布）等の収蔵庫備品の拡充によって、虫菌害に対する危機意識と日常的な予防体制が整いつつある。									
 専門業者による収蔵庫の清掃									
【定量的評価】	項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
	—	—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 1223

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(2)ー2 施設の環境整備							
【年度計画】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 (4館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I P M(総合的有害生物管理)の徹底を図る。 (奈良国立博物館) 1) 展示室及び展示ケースの温湿度管理について、無線LANによるデータ管理システムを更に充実させる。 2) 展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 3) 収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。								
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかわる箇所を中心に、昆虫調査用トラップを1ヵ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。 - 文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。 - 収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。 (奈良国立博物館) 1) 展示室及び展示ケース内の温湿度の管理をすることができる無線LANによるリアルタイムの温湿度管理システムにより、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応した。 2) 展覧会ごとに展示レイアウトに応じて無線LAN温湿度センサーを設置し、期間中に得られたデータを展示終了後に分析して報告書を作成した。 - 正倉院展終了直後の24年11月13日に、毎年継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を宮内庁正倉院事務所研究員とともにに行った。 3) 展示室内の温湿度については無線LAN温湿度管理システムにより24時間リアルタイムで状況を把握した。収蔵庫及び文化財保存修理所各工房内については、ロガータイプの温湿度センサーを各5ヵ所程度設置し、定期的にデータの回収、分析を行うことによって温湿度の変化を把握した。								
【補足事項】 - 展示室・収蔵庫・文化財保存修理所内など館内150ヵ所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制により毎月1回交換・回収し、回収したトラップは外部業者に委託して文化財害虫の捕獲数データを蓄積した。この調査データをもとに、害虫被害が懸念される箇所を中心に忌避対策及び殺虫処置を実施し、併せて害虫発生を防ぐための清掃による衛生環境の保持などI P Mの実践につなげた。 - 展示ケースの残留ガス(VOC)をチェックするため、外部機関に検査を依頼するとともに、館内でもパッシブインジケータを利用した独自検査を実施した。 - 自動調湿装置を内蔵した免震ケースを使用し、気象条件や多数の観覧者など外的要因で展示室内の温湿度環境に変動が生じた場合でも、展示ケース内の温湿度を安定して好条件に保つことができた。								
展示ケース内に設置した 温湿度センサー 								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—	—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)-2 施設的环境整備								
【年度計画】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 (4館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I P M(総合的有害生物管理)の徹底を図る。 (九州国立博物館) 1) 館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。 2) 全館的視野に立った陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。									
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長	今津節生					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I P Mの徹底を図った。文化財搬入に際し、I P Mメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺菌処理を実施した。 (九州国立博物館) 1) 常設展示室 70、特別展示室約 30、収蔵庫 30 ヶ所に温湿度計を設置し、環境データを解析した。また、ダストを調査して収蔵環境の改善を行った。 2) 環境データを解析することで、極めて安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。									
【補足事項】 ・展示・収蔵環境をより安定させることができた。今後も安定を維持しつつ、より一層の効率化を図りながらエネルギーの削減に寄与したい。 ・収蔵庫・展示室等の約 400 ヶ所に常時粘着トラップを設置し年間を通して、2 週間おきに定期的モニタリングを実施し、害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期に発見対処する体制を維持した。 ・地元 N P O 法人やボランティア活動との連携に努め、文化財の適切な管理・保存について市民や地域の理解を深めた。展示室等一般来館者エリアの温湿度記録や生物モニタリングには、引き続き今年度も両者の協力を得た。 ・平成 24 年度文化庁補助事業・ミュージアム活性化事業により「市民と共にミュージアム I P M」を実施することにより、I P M ボランティア活動や N P O 法人等による I P M 支援者活動へのさらなる指導をすすめることができた。 ・殺虫殺菌処置は、特別展やトピック展あるいはイベント用資料等借用や持ち込み資料についての対応である。内訳は二酸化炭素処置 2 件、低酸素法処置 3 件、薬剤くん蒸処置 1 件。 ・1 階エントランスにあるカフェで文化財害虫の発生があったが、I P M の基本的な考え方に則り対応し、徹底メンテナンスによって被害拡大を未然に防ぐことができた。									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
殺虫殺菌処置		6 件	—	—		6	7	7	6
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



地元 N P O 法人によるカフェのメンテナンスの様子

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1311-1

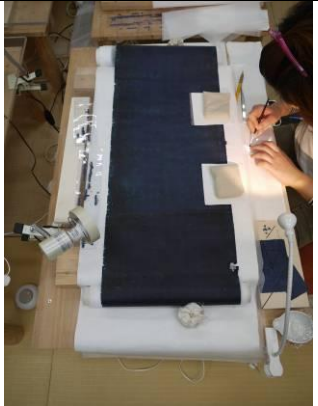
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)－1 収蔵品の修理 ①計画的な修理及びデータの蓄積								
【年度計画】 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4館共通) 1) 作品の応急修理に積極的に関わり、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度(東京:40、京都:10、奈良:9、九州15)の本格修理を実施する。 (東京国立博物館) 1) 引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 2) 保存修復関係資料(前年度修理実施分)のデータベース化を図る。(70件程度)									
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 神庭信幸						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 紙本などの修理技術者として保存修復課に3名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を本格化させた。作品の劣化予防のために485件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから95件の本格修理を実施した。うち国宝1件、重要文化財3件は寄付金による本格修理である。 (東京国立博物館) 1) 修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む100件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期計画策定を行った。 2) データベース構築のために23年度に本格修理を実施した106件の内、修理が完了した83件の修理内容についてデジタル化を実施した。東京国立博物館文化財修理報告書XⅢを刊行した。 ・収蔵品管理システム「列品管理プロトタイプデータベース」に、作品の本格修理に関する予定及び履歴のデータを管理する機能を追加した。(詳細は処理番号4571-3参照)									
【補足事項】 ・国宝「檜図屏風」(安土桃山時代)はバンク・オブ・アメリカからの寄付金により修理を開始した。 ・文化財保存修復学会第34回大会(24年6月30日・7月1日、東京)において「柳橋水車図屏風(東京国立博物館蔵)の修理事例-テラヘルツ波を用いた事前調査を踏まえて-」を発表した。 ・文化財保存修復学会第34回大会(24年6月30日・7月1日、東京)において「作品に安全な展示方法の新案①-ミニアチュール展示の工夫を例として-」を発表した。 ・文化財保存修復学会第34回大会(24年6月30日・7月1日、東京)において「大型の掛軸装における新たな展示補助器具」を発表した。 ・文化財保存修復学会第34回大会(24年6月30日・7月1日、東京)において「東京国立博物館所蔵 法隆寺裂ガラス挟みの修理方法」を発表した。 ・文化財保存修復学会第34回大会(24年6月30日・7月1日、東京)において「東北地方太平洋沖地震文化財等救援事業における東京国立博物館の活動報告-1-」を発表した。 ・文化財保存修復学会第34回大会(24年6月30日・7月1日、東京)において「東北地方太平洋沖地震文化財等救援事業における東京国立博物館の活動報告-2-」を発表した。 ・文化財保存修復学会第34回大会(24年6月30日・7月1日、東京)において「東北地方太平洋沖地震文化財等救援事業における東京国立博物館の活動報告-3-」を発表した。									
									
列品番号 A-1459 「花車図屏風」の修理風景									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
修理件数(本格修理)		95件	40件	S	変化	75	106	139	106
文化財修理データベース化件数		83件	70件程度	A		85	53	98	114
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調							

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ①計画的な修理及びデータの蓄積								
【年度計画】 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4館共通) 1) 作品の応急修理に積極的に関わり、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州15）の本格修理を実施する。 (京都国立博物館) 1) 文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る。									
担当部課	学芸部列品管理室 学芸部修理指導室		事業責任者	室長 鬼原俊枝 室長 浅湊毅					
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・館費による修理に加えて、外部資金として財団の修理助成による修理を2件開始した。また、個人から当館に寄せられた文化財修復のための寄付金による書跡の修理を完了した。 ・修理中に修理請負候補者選定委員会による工程検査を行い、修理が適正に実施されているかを現場確認した。 ・本格修理実績 13件 内訳は絵画3件、書跡2件、彫刻1件、漆工1件、染織3件、金工1件、考古2件 (京都国立博物館) 1) 引き続き文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図った。									
【補足事項】 (4館共通) 1) ・昨年度決定した修理助成を事業費に充当して館蔵品の修理を実施中である。朝日新聞文化財団の助成による国宝病草紙10面の修理(4ヵ年間助成額約2000万円)、出光文化福祉財団による重要文化財紙本著色若狭国鎮守神人絵系図1巻の修理(2ヵ年800万円)を開始した。 ・修理請負候補者選定委員会委員は、若狭国鎮守神人絵系図修理と地藏菩薩像修理の工程検査を修理担当工房の現場に赴いて行い、技術者から詳しい説明を受け、活発な質問がなされた。本工程検査を通じて、修理物件が適切な修理を受けていることが確認され、委員は修理に対する理解を深め、技術者は文化財の価値に関する判断を受ける機会となった。今後はできるだけ工程検査を行えるよう努力したい。 ・当館の収蔵品修理のために個人から寄せられた寄付金を充当して行った書跡の国宝金剛般若経開題残巻(弘法大師筆)1巻の解体修理が竣工した。 ・館蔵品の修理は緊急性の高いものから実施するよう努め、中長期的計画の策定に向けて努力しているが、修理事業費に限られている一方で、少額修理が進んだ結果、高額修理がしめる割合が高くなってきているので、高額修理の継続事業化と少額修理計画との組み合わせによる中期的計画を検討している。  重要文化財 紙本著色 若狭国鎮守神人絵系図（部分）									
(京都国立博物館) 1) 本年度は83件の新規修理文化財の搬入がありデータベース化を行った。 また、過去のデータに関して1,236回追加、更新を行った。									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
修理件数(本格修理)		13件	10件	A	経年変化	17	5	9	10
文化財修理データベース化件数		93件	—	—		112	114	106	118
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 1313-1

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ①計画的な修理及びデータの蓄積							
【年度計画】 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4館共通) 1) 作品の応急修理に積極的に関わり、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州15）の本格修理を実施する。 (奈良国立博物館) 1) 引き続き修理の中長期的計画を策定する。 2) 修理資料のデータベース化を図る。 3) 寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。								
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生					
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・館蔵品修理9件のうち、新規7件、前年度からの継続事業2件を実施した。 内訳 絵画2件（※うち重要文化財 絹本着色十王図1件は3ヵ年継続事業の2年目。重要文化財 絹本着色普賢延命像1件は2ヵ年継続事業の1年目。） 書跡3件（※うち重要文化財 紺紙金字一字宝塔法華経1件は2ヵ年継続事業の2年目。） 彫刻2件 工芸1件（※国宝 刺繍釈迦説法図1件は4ヵ年継続事業の1年目） 考古資料1件（※陶棺（奈良市西大寺出土）1件は2ヵ年事業の1年目） ・年度内に5件が完了した。 (奈良国立博物館) 1) 平成22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、計画通りに館蔵品修理を実施している。 2) 前年度に引き続き、当館紀要『鹿園雑集』に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧(平成23年度)」を掲載した。併せて修理報告資料を整理し、データベース化を進めた。 3) 寄託品4件について助成を受けて修理を実施した。								
【補足事項】 ・賛助会員や協賛企業からの寄付金を館蔵品修理費に使用する規定を新たに策定し、これに基づいて前年度からの継続事業である絹本着色十王図（3ヵ年継続事業の2年目）及び紺紙金字一字宝塔法華経（2ヵ年継続事業の2年目）の重要文化財2件に加え、刺繍釈迦説法図の国宝1件の修理に新規着工した。 ・寄託品修理については、住友財団の助成による京都・海住山寺所蔵薬師如来坐像修理、出光文化福祉財団の助成による京都・曼殊院所蔵日吉山王垂迹神曼荼羅修理の2件について新規着工し、出光文化福祉財団の助成による大阪・一心寺所蔵刺繍法然上人絵伝修理京都、出光文化福祉財団・朝日新聞文化財団の助成による京都・海住山寺所蔵阿弥陀浄土曼荼羅修理の2件を前年度からの継続事業として引き続き実施した。								
								
館蔵紺紙金字一字宝塔法華経の解体修理に伴う補紙作業風景								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
修理件数(本格修理)	9件	9件	A		8	11	9	11
文化財修理データベース化件数	70件	—	—		—	—	—	54
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(3)－1 収蔵品の修理 ①計画的な修理及びデータの蓄積							
【年度計画】 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4 館共通) 1) 作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから 74 件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州 15）の本格修理を実施する。 (九州国立博物館) 1) 博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。 2) 修理資料のデータベース化の調査を実施する。								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	保存修復室長 藤田励夫					
【実績・成果】 (4 館共通) 1) 館所蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財 31 件（本格修理 20 件、応急修理 11 件）を修理した。 (九州国立博物館) 1) 九州をはじめとする館外所蔵者負担による文化財修理 22 件のために、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。館費による修理とあわせて 53 件の修理を実施した（施設内修理 47 件、施設外修理 6 件 合計 53 件）。 2) 修理報告書及び修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。								
【補足事項】 (4 館共通) 1) 館費による修理件数 31 件（本格 20、応急 11） （絵画 7（うち応急 2）、書跡 5（うち応急 4）、彫刻 3（うち応急 2）、漆工 1（うち応急 0）、染織 5（うち応急 0）、考古 6（うち応急 2）、歴史資料 4（うち応急 1）） (九州国立博物館) 1) 修復施設 1～3 では、(社) 国宝修理装演師連盟が館所蔵品 17 件の他、国宝・那覇市所蔵琉球国王尚家関係資料文書記録類や重要文化財・京都国立博物館所蔵円満院宸殿障壁画など 34 件の修理を実施した。 修復施設 4 では(財) 美術院が 3 件、5 では(株) 芸匠が 4 件、6 では目白漆芸文化財研究所が 5 件の館所蔵品等の修理を実施した。								

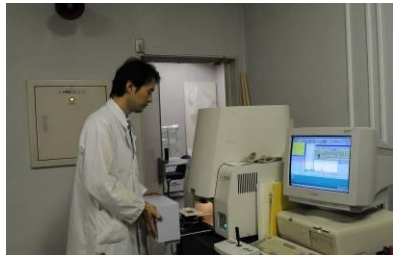
修復施設 2 での修理風景

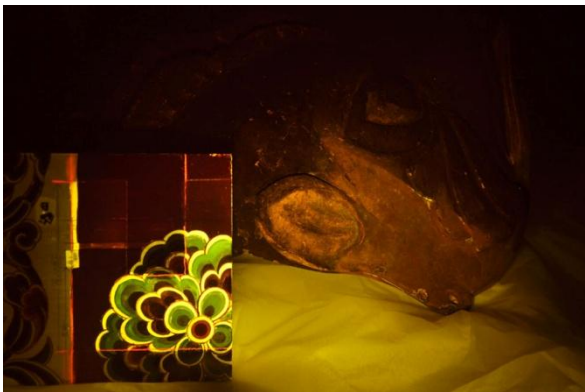
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
修理件数(本格修理)	20 件	15 件	A		25	24	19	19
文化財修理データベース化件数	—	—	—		—	—	—	—
修復施設の活用(補助事業等)	22 件	—	—		15	26	23	19
表具裂データ	0 件	—	—		32	24	9	0
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1311-2

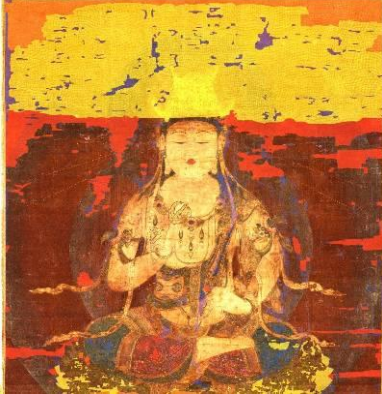
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(3)－1 収蔵品の修理 ②科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4 館共通) 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。								
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 神庭信幸					
【実績・成果】 (4 館共通) 1) 絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を 32 件(A-10 先徳図像 など)実施し、本紙の保存に関して検討を行った。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析 40 件(TJ-2898 刻文匱など)、X線透過撮影 12 件(J-9836 埴輪など)、高精細デジタルスキャナーによる可視・赤外域の撮影 12 件(A-1069 檜図屏風など)、テラヘルツ波分析 1 件(A-1069 檜図屏風)の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。								
【補足事項】 ・文化財保存修復学会第 34 回大会(24 年 6 月 30 日・7 月 1 日、東京)において「フラットパネルディテクター (F.P.D.) デジタルX線撮影システムの現状と課題」を発表した。								
 蛍光X線分析作業								
【定量的評価】 項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—	—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S ㊤ B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(3) -1 収蔵品の修理 ②科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4 館共通) 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 村上 隆					
【実績・成果】 (4 館共通) 2) 当館が所蔵する「伎楽面 迦楼羅」(奈良時代・8 世紀) の修理を当館文化財保存修理所内の(財)美術院において平成 24 から 25 年度の 2 ヶ年にかけて行う。その初年度である 24 年度は修理のための事前調査として、表面の彩色にどのような顔料および技法が用いられているかを、美術院とともに精査した。その一環として、彩色部分にポリライト(可視光線の波長領域を変えられる装置)を照射して反射光をデジタル機器で撮影するという科学的な方法を用いた。								
【補足事項】 2) ・近年の正倉院における調査の成果として、伎楽面を中心に古代の彩色に際しては、表面に油を塗ることで漆塗のごとき光沢をあらわすという技法が用いられていたことがわかってきた。それはポリライトという特殊な光をあて、その反射光の反射具合(油が表面に塗布されていると反射光が強く光る)によって判断することができる。当館の伎楽面にもポリライトを照射したところ、トサカ部分や耳の内部などの顔料が残っている部分では、油を塗布していた場合特有の反射光が若干ではあるが確認できた。したがって本伎楽面にも古代特有の技法が用いられていることがわかった。その結果、かねてより作風から奈良時代の製作であると判断されていた本作であるが、その判断が正しかったことがあらためて裏付けられることとなった。 ・彩色の表面に油を塗布するという技法は、正倉院に伝存する伎楽面の調査において確認され、近年では唐招提寺の鑑真和上像においても同様の技法が用いられていることがわかっている。このような技法は、古代に特有のものであることが予想されており、本伎楽面も奈良時代の作例であることがより確実となった。								
								
図 1:「伎楽面 迦楼羅」(京都国立博物館蔵)通常光による撮影				図 2:「同面」ポリライト照射光による撮影 油を塗布している部分は反射光が強く光る。				
仮面の手前の板は古代の彩色を復元したもの。図 2 で強く光っている部分は復元に際して油を塗布したところ。								
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年 変化	20	21	22	23
科学的調査	1 件	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 1313-2

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)－1 収蔵品の修理 ②科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4 館共通) 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (奈良国立博物館) 1) 木造作品について、可能なものは木材樹種同定の調査を行い、作品の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのX線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。									
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生						
【実績・成果】 (4 館共通) 1) 館蔵紫紙金字大方広仏華嚴經卷第七十、七大寺日記の修理に際して料紙の繊維分析を実施し、補紙として用いる紙の仕様を決定した。 2) ・館蔵絹本着色十王図の修理に際し、当館光学調査室の機器を用いて肌裏に残る顔料の蛍光X線分析を実施した。 ・館蔵絹本着色普賢延命像の修理に際し、ポリライトを用いて画面の蛍光画像調査を実施し、補絹の状態確認を行った。 (奈良国立博物館) 1) 当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品1件について、京都大学生存圏研究所に委託して樹種同定調査を実施し、その成果を当館研究紀要『鹿園雑集』に掲載した。 2) 古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料1件の修理に際し、X線撮影及び蛍光X線による材料分析を実施し、修理方針の決定に役立てた。									
【補足事項】 ・文化財保存修理所各工房が当館館蔵・寄託品を修理するに際して文化財調査を学芸部研究員と共同で実施し、データの収集・共有化に努めた。また同調査を円滑に進めるために当館の備品である光学機器(高精細デジタルカメラ、蛍光X線分析器、ポリライト)を積極的に利用した。									
 館蔵普賢延命像修理に伴う光学調査に基づいて作成した損傷地図									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—		—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ②科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4 館共通) 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。									
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	保存修復室長 藤田励夫						
【実績・成果】 (4 館共通) 1) 重要文化財対馬宗家関係資料や朝鮮通信使川御座宣図六曲屏風等の紙本作品7件について繊維同定を行った。 2) ・秋草蒔絵衣裳箱についてX線CT撮影を行い内部構造と損傷状況を調査した。 ・秋草蒔絵衣裳箱について紫外線蛍光観察とラマン分光分析を行い、修理履歴と修理材料の調査を行った。 ・十一面観音菩薩立像についてX線CT撮影を行い内部構造の調査を行った。									
【補足事項】 ・博物館内に修復施設と分析機器が設置されている特色を生かし、修理技術者、絵画、書跡、漆工、彫刻などの各専門分野を持つ研究員、文化財科学専門の研究員の3者が共同で修理作品の調査、検討を行い、最善の修理を行うことができた。 ・例えば、文化財科学専門の研究員は、【実績・成果】に記したように多くの調査を実施した。このことにより、作品の材質や技法、構造を詳しく知ることが可能となり、安全かつ適切な修理の実施に役立つことが非常に大きかった。 ・また、絵画、書跡、漆工、彫刻などの専門を持つ研究者と協議しながら修理を進めることができたので、各作品の特色を踏まえ、取り扱いや保管、展示についても十分に考慮した修理ができた。 ・このように、館内で打ち合わせを密にしながら修理を進められる環境にあることが、有意義であった。									
 秋草蒔絵衣裳箱（部分）の紫外線蛍光写真 後世の修理と考えられる部分が青白く光っている。									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
科学的調査		11件	—	—		10	7	7	24
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

【書式A】

施設名

機構本部・京都・奈良・九州国立博物館

処理番号

1320

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)－2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。								
【年度計画】 (機構本部・京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) 1) 文化財保存修理所に関する規程を整備する。									
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長 竹之内勝典						
【実績・成果】 1) 23年度より施行の本部規程第81号「独立行政法人国立文化財機構文化財保存修理所等の供用及び運営に関する規程」に基づき、文化財保存修理所(京都国立博物館、奈良国立博物館)及び文化財保存修復施設(九州国立博物館)の供用及び運営を行った。また、文化財保存修理所等の整備・充実にについて引き続き検討した。									
【補足事項】									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	20	21	22	23
—		—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(3)－3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。							
【年度計画】 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。								
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部列品管理室 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館総務課	事業責任者	課長 富田 淳 室長 鬼原俊枝 課長 中村 恵 課長 阿部 勝					
【実績・成果】 (東京国立博物館) ・東洋館の収蔵庫改修工事の完了に伴い、表慶館2階仮収蔵庫等に収納していた東洋関係の文化財を、東洋館の収蔵庫に移動した。 ・資料館3階の収蔵庫を整備し、収蔵スペースを確保するための棚を新設した。 ・本館2階の旧絵画収蔵庫の棚を改修し、本館特4仮収蔵庫から漆工品、本館地下収蔵庫から民族資料を移動し、それらの保管環境を大幅に改善した。また特4仮収蔵庫から建築模型を本館地下収蔵庫に移動し、保管環境を改善。特4を多様な目的に使用できるようにした。 ・東洋館5階から150年史関係資料を資料館へ移動し、調査研究のためのスペースを確保した。 ・特3仮収蔵庫に棚を増設し、収蔵品の収納を効率化し、展示具収納スペースを確保した。 (京都国立博物館) ・建設中の新平常展示館について、空調フィルターの性能を検討した。また環境モニタリングの計測情報を管理サーバーに蓄積し、一元管理するシステムの設計内容を精査した。また、新設するフィルム保管室の温湿度調整機能について24時間空調等の検討を行った。 ・デジタルカメラ等撮影機材の導入、及びサーバーの構築を行い、デジタル撮影への移行を進めている (奈良国立博物館) ・火災時に収蔵品を毀損する恐れのないガス消火設備（ハロンガス）を収蔵庫・調査室に設置した。 ・既存の収蔵棚を改造し、より効率的な収納を図った。 ・収蔵庫・調査室内壁の断熱を強化し、温湿度環境の向上を図った。								
【補足事項】 (京都国立博物館) ・新平常展示館空調のエアフィルターの選択にあたって、材質、構造、メンテナンス等、総合的な検討を行なった結果、完成時点では、アルカリ性物質除去の性能をもった活性炭入ケミカルフィルター（飛散防止のための不織布形状のもの）を装着し、以後は、定期的な空気環境調査を行いながら、現状に合わせたフィルターを選択（継続・変更）していく計画を検討した。 ・新平常展示館では、中央監視による集中的な空調管理とともに、無線通信による細かな環境モニタリングの実施とデータ蓄積・統計によって、より安全で効率的な環境管理を目指している。 ・フィルム保管に適切な低温・低湿の環境が効率的に維持されるよう、設備面・運用面での様々な可能性や、結露等予想される問題への対策について検討した。								
				建設中の新平常展示館収蔵庫 (京都国立博物館)				
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—	—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実に図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				